



将来的に海外の取引先の開拓を考えている、または既に取引を開始しているビジネスマンのあなたへ

海外の取引先とのコミュニケーション
英語だけ出来れば
十分だと安心していませんか？

本書の使用法ガイド

本書は、日本国内で行われている、あらゆる社会的利用法についての、完全で本物の権威を有しています。

情報を可能な限り簡単明瞭に伝えるために、また検索しやすいように、箇条書きで編集しています。

欧米、特にアメリカで普遍化しているマナーを引用しているため、日本の実情とは乖離しているところもありますが、マナーの本質的な意味性は何ら損なわれるものではありません。

目次

はじめに	5
------------	---

第1章『冠婚葬祭』にまつわるマナー	6
-------------------------	---

結婚式	7
結婚記念日	13
お葬式	19

第2章『コミュニケーション』にまつわるマナー	26
------------------------------	----

挨拶	27
紹介のルール	33
挨拶状のルール	37
手紙のマナー	40

第3章『食事』にまつわるマナー	48
-----------------------	----

テーブルマナー	49
食材のマナー	52
夕食会	56

第4章 『出会い』 にまつわるマナー 61

訪問	62
ダンス	66

第5章 『一般的』 なマナー 69

手紙	70
挨拶状	73
人の呼び方	75
夕食会	76
紹介	79
乗り物	83
贈り物	88
街頭	91
会話	93
歩行	95
旅行	96
喫煙	98
ドレスコード	100

おわりに 105

■はじめに

私たちの社会生活は、さまざまなルールに縛られています。

法律で遵守しなければいけないと定められ、守らなければ罰せられるルールもあれば、破っても日常生活には何の影響も及ぼさないルールもあります。

いわゆる社会常識や生活慣習などがこれに当たります。

仮に、社会常識や生活慣習を守らなかったところで、非常識な奴だとみなされるぐらいかも知れません。

しかし、本当にそうでしょうか？

実際は、罰せられないから、怒られないから、日常生活に支障がないからといってルールを守らなければ、人間関係がギクシャクするばかりか、社会生活は大きな歪みをきたします。

そうならないために、世の中にはマナーが存在するのです。

社会常識や生活慣習を守ること、つまりマナーを守ること、人は人間らしい豊かで心地良い暮らしを営むことができるのです。

いまこそ、マナーの持つ意味と力を問い直し、マナーを駆使して、洗練された人間力を身に纏おうではありませんか。

■第1章

『冠婚葬祭』にまつわるマナー

●結婚式

結婚式には、守らなければならない、たくさんのマナーが存在します。

当事者はもちろん、家族にとっても大切な人生の門出ですから、絶対に粗相のないようにしなければなりません。

欧米流のマナーが多く、日本では省略されているところもありますが、基本的なマナーとして覚えておいて損はありません。

【全般】

- ・花嫁は教会と聖職者を選択し、希望するなら個人的に、あるいは文書によって挙式を依頼できます。
式に使う音楽、オルガン演奏者、挙式の日取りを選択できます。
- ・結婚式当日、花嫁は、祭壇で会うまでに花婿と会うのは通例ではありません。
- ・結婚式の食事では常に、招待客は応接室に集合し、花嫁と花婿に先導されて、一緒に式場に入るのが通例です。
- ・ウェディングケーキを食事の際に食べるのは通例ではありませんが、そのような場合、まず花嫁が入刀し、切り分け、最初に婚礼のテーブルに着く人々に配ります。
- ・結婚の挨拶状を発行する前に、女性は個人的に、自分の挨拶状を友人の家に送ります。

- ・結婚の挨拶状が発行されたら、女性はいかなる社交的な場に出席しないし、個人的な訪問をしないし、パーティーにも参加しません。
- ・女性がその婚約者の職場を訪問するのは賢明ではありません。
- ・婚約発表したら、男性はすぐに、女性に指輪を贈ります。
- ・女性は婚約指輪を左手の薬指にはめます。
- ・婚約指輪は小さなものでなければなりません。
- ・ダイヤモンド、ルビー、月長石、サファイア、他の貴重な石が使用される場合があります。
- ・指輪を選ぶ際、男性は女性に助けてもらうこともありますが、男性1人で選ぶ方が良いでしょう。
- ・女性は、望むなら男性に婚約指輪を贈ったり、贈り物をしたりする場合があります。
- ・結婚式でのライスシャワーはお勧めしません。
しかし、行うのならお米を用意し、お客さんに手渡し、新婚旅行に向かうために出てきた新郎新婦に投げます。

【通知】

- ・結婚式の次の日に通知の挨拶状を送ります。
- ・受け取り側は、受け取った事を知らせる必要はありません。
- ・前もって郵送の準備を整えておき、その費用は花嫁の家族が負担します。

【時間】

- ・朝の9時～夜の9時までが適切です。
- ・朝の時間帯は、通常家族だけの結婚式に選ばれ、12時や真昼は流行の時間帯、3～6時の間は、関係者にとって一番都合が良い時間です。
- ・夕方の結婚式は不便です。
日中に比べていろいろな事をやりにくいというのが主な理由です。

【教会の入場券・カード】

- ・教会で開催される公共の結婚式では、こうしたカードが使用され、それがないと教会に入れません。
- ・入場券は結婚式の招待状と共に送られます。

【教会での席次】

- ・家族、親族、両家の親しい友人のために用意した席を区別する方法の一つとして、「区切りに白いリボンを結ぶ」というものがあります。
- ・花嫁が到着する前にリボンをほどき、これらの席の外に沿って伸ばし、お客さんを囲みます。
- ・このようリボンを使用する場合、招待状に席番号を記入しておくといいでしょう。
- ・リボンを使用しないと、区別を避けられるというメリットがあります。

【服装】

- ・花嫁はベールをかけ、純白のデイ・ドレスかモーニング・ドレスを着用します。
- ・手袋は教会で着用する必要はありません。
- ・ベールは白を選びます。
- ・花嫁の希望によってベールの長さを調節します。
- ・ベールは長い方が、結婚式の伝統と慣習にふさわしくなります。
- ・夕方の結婚式では、花婿は正式のイブニング・ドレスを着用します。朝あるいは午後の結婚式では、アフタヌーン・ドレスを着用します。
- ・黒い素材のダブルのフロックコート、同じ素材のベスト、シングルかダブル（後者が望ましい）です。
- ・ズボンは明るい模様で、極端なものは避けます。
- ・白の麻を使用し、ネクタイは白か明るいもの、手袋は朝と昼の結婚式では、花婿はグレーのスエード。夕方の結婚式では、白の子ヤギ革のグローブを着用します。
パテントレザーの靴、シルクハット、完璧な服装で臨みます。
- ・花婿の父親は、午後の結婚式ならアフタヌーン・ドレスを、夕方の結婚式ならイブニング・ドレスを着用します。